



東京立川ロータリークラブ

2018.11.30 第2818回 例会

Weekly Report



本日の卓話講師の吉浦健志様を囲んで

【司会進行】

SAA委員会 織原寛一郎委員長

【開会点鐘】 清水淳一会長

【会長挨拶】 清水淳一会長

【幹事報告】 平井洋孝幹事

【委員会報告】

親睦委員会 古屋佳男副委員長

【ニコニコ発表】

親睦委員会 永淵 慎委員

【卓話講師紹介】

プログラム委員会 益子悦雄委員長

【卓話】 立川駐屯地司令

吉浦健志一等陸佐

【閉会点鐘】 清水淳一会長

■立川駐屯地見学会

11月30日(金)	会 員 数	114名
	出 席 義 務 会 員	106名
	出 席 免 除 会 員	8名
	当 日 出 席 者	81名
	出席免除会員の当日出席者	1名
	出 席 率	75.7%
	11月9日の出席率	85.45% → 95.45%
11月16日の出席率	75.00% → 95.37%	

【会長挨拶】 清水淳一会長

11月26日(月)、多摩中グループ協議会が国分寺において開催されましたが、その場で会員増強賞をいただきました。来週の例会で対象者に贈呈いたします。またガム地区大会の日程内容の報告があり、国際大会が2019年6月1日～5日にかけてドイツ連邦共和国のハンブルグにおいて開催されます。登録料が12月15日まで395ドル、2019年3月31日まで495ドル、6月5日まで595ドル、またガバナーナイトの登録料が12月15日までが23,000円、それ以降は27,000円となっております。地区主催のロータリーデーが2019年5月12日に開催されますが、多摩中グループ担当のブースでは官製はがきを使用し、3年後の自分に手紙を書いてもらう、いわゆるタイムカプセル的な事を実施することになりました。多摩中グループのインターシティミーティングについて、ガバナー補佐から内容の説明があり、各クラブが抱えている問題、会員増強、維持を中心とした卓話などが上がりましたが、まだ決定されておられません。以上のような協議会でした。さて、本日はここ陸上自衛隊立川駐屯地に、ご無理を言ってお邪魔をさせていただきました。日頃からロータリー活動に際しましてはご理解、ご協力を頂きまして有難うございます。9月29日の立川防災航空祭並びに、11月23日の立川花火大会においてお招き下さり、家内共々心より感謝申し上げます。秋深まっのての花火は夏よりも空気が澄んでいて、満月も加わり素晴らしかったのですが、とても寒かったです。何はともあれ、会長特権で夫婦揃って楽しませて頂きました。VIP席での目の前の花火鑑賞に、家内は「来年も来れたらいいな」と贅沢な事を言っていました。会長所信にもある基本方針の一つ「災害・防災に関連した人道支援職業奉仕の一環として、立川駐屯地指令吉浦健志一等陸佐による卓話を頂戴いたします。宜しく願いいたします。先日、立川市消防団OB会立川消友会の訓練に参加してまいりました。そこで先の北海道大地震で起きた厚真(あつま)町の土砂崩れの被害に遭った方々、立川にある東京消防庁第八方面本部ハイパーレスキュー隊の救助活動の映像を見ました。まずは北海道の自衛隊が先遣隊として道路を片付け通行を確保し、自衛隊、消防、警察による重機を使った救助活動、そして最後は手掘りの作業で全員生存の救助でした。最後に本日の例会、職業奉仕委員会とプログラム委員会の皆様に感謝申し上げます。



清水淳一会長

【幹事報告】 平井洋孝幹事

- 昨日親睦委員会炉辺が、パレスホテルにて開催。
- 12月6日親睦ゴルフ会第97回市村杯が開催予定。
- 12月7日の例会は年次総会開催予定。

2018～2019年度 RIテーマ

2018～2019年度
国際ロータリー会長
バリ・ラシ



インスピレーションになる

2018～2019年度 クラブテーマ

「一期一会
ロータリー」

東京立川ロータリークラブ
会長 清水淳一



司会進行
織原寛一郎委員長



ニコニコ発表
永淵 慎委員



幹事報告
平井洋孝幹事



例会時には必ずバッジをつけましょう

【委員会報告】 親睦委員会 古屋佳男副委員長

来年2月のグアム地区大会のご案内です。オプションツアーはJTBより直接来週送付されますので、ご確認をお願い致します。続いて12月21日クリスマス家族例会です。締め切りは12月14日例会終了時までとなっておりますので併せてご確認ください。



【ニコニコ発表】 親睦委員会 永淵 慎委員

●清水淳一会長 本日は、陸上自衛隊立川駐屯地に無理を言ってお邪魔させて頂き有難うございます。東部方面航空隊長兼、立川駐屯地司令、吉浦健志一等陸佐様の卓話、楽しみにしております。11月28日に社会を明るくする運動に貢献されたという事で、感謝状をクラブに対し頂きました。榎戸岩雄さんを始めとする保護司の皆様有難うございました。感謝申し上げます。来週の例会でご披露させていただきます。

●平井洋孝幹事 吉浦健志一等陸佐様、卓話楽しみにしておりました。宜しくお願い致します。

●益子悦雄さん 本日は移動例会という事で、会員の皆様におかれましては御協力有難うございました。立川駐屯地司令、吉浦健志一等陸佐御講演宜しくお願いします。

●鈴木 誠さん 本日はお忙しい中、立川駐屯地司令、吉浦健志様の御講演を頂き有難うございます。合わせて、職場見学として、駐屯地内を拝見させて頂きます。宜しくお願い致します。

本日合計 23,000円 本年度累計 1,428,000円

【卓話講師紹介】

プログラム委員会 益子悦雄委員長

吉浦健志様は、平成30年3月27日に当地に着任されております。昭和42年山口県に生まれ、平成2年に防衛大学校を卒業されております。入隊後様々な職を歴任されておりますが、その中でも1993年より行なわれていました第16次ゴラン高原派遣輸送隊長として任務につかれました。本日は「陸上自衛隊の災害派遣等」というテーマにてご講演頂きます。



卓話「陸上自衛隊の災害派遣等」

立川駐屯地司令 吉浦健志 一等陸佐

平素より、皆様には当駐屯地に対して多大なるご理解とご協力を頂いております。誠に有難うございます。また優良職業人という事で、毎年2名の表彰を頂いており、重ねて御礼申し上げます。



本日は「陸上自衛隊の災害派遣等」というテーマでお話をさせて頂きますが、その前の自己紹介として、特技に「航空機の操縦」という事で、当地で保有しているヘリが3種あり、OH-6Dの他AH-1Sという攻撃型ヘリが十数機、その他UH-1Jという輸送用ヘリも20機保有しております。そして経歴ですが、入隊してからのポストは15個目となっておりますが、御紹介も頂きましたゴラン高

原はイスラエルの占領地であるゴランへ国連のPKOの一部として、停戦にあたった部隊の後方支援として派遣されました。そして統合幕僚長の運用国際地域調整官として市谷で任務に就いていた際は、海外勤務がとても多く、テーマにありました「等」の部分である、国際緊急援助活動をする際に現地に派遣されて調整をする役割でした。また西部方面航空隊長兼高遊原分屯地司令という事で熊本に赴任しておりましたが、その際に熊本地震に分屯地の自身の部屋で遭遇しましたが、震度7のすごさを体験致しました。



では、本日の内容であります「災害派遣」について話したいと思います。まず災害派遣の種類としては3種類あり、一つは「要請派遣」といい、都道府県知事等から要請を受けて行う派遣であります。北海道の地震では、北海道知事から災害派遣要請があり自衛隊が出動したという状況です。次に「自主派遣」ですが、これは特に緊急を要し要請を待たないで行なう派遣でありまして、例えば航空機の墜落が起きた場合には、救助も含め地上部隊を投入致します。最後に「近傍派遣」と言ひまして、防衛省の施設や駐屯地の近傍に災害が発生した場合に派遣される事で、自衛隊の駐屯地は全てで消防隊を持っており、特に航空機の墜落等の場合でも消火活動の可能な消防車を保有しておりますので、そういった災害にも対応しております。続いて陸上自衛隊の即応態勢についてですが、まず初動派遣部隊（FAST-Force:ファーストアクションサポートフォース）と云って、自然災害などに常時即応できる態勢で待機している初動対処部隊で、ヘリを含む車両部隊が全国にあり、映像の伝送装置を備えたヘリが設置されております。24時間体制で待機しておりますが、当東部方面隊は人員約720名、車両約180台、ヘリ7機とヘリの映像伝送装置を1組備えており、全国では人員約3,810名、車両約1,030台、ヘリ約36機の体制です。災害派遣の初動態勢として、我々は航空偵察・ヘリ映像伝送・要救助者が出た場合の患者空輸の任務を担っております。ヘリコプター映像伝送装置についてですが、現在は衛星を使用しての伝送方式になっていないため、一旦地上局で受信した物を再度衛星可搬局装置というものを使って衛星に飛ばし、そこから指定された方面へ飛ばすという方法が取られていますが、今後は新たに衛星型になれば直接の伝送が可能になるかと思ひます。現在でも首相官邸まで配信されています。統合幕僚幹部について

いた3年ほど前に、鬼怒川が氾濫するという大規模水害が発生しましたが、その時に丁度自分が任務に就いていたために、この初動態勢として映像の撮影と伝送を官邸まで行ないました。そして2年半前にも熊本地震による大規模災害が発生しましたが、その時の活動を少し紹介させていただきます。一昨年の4月14日の前震から16日の本震まで、熊本地方を震源とする最大震度7の地震が発生しました。当時は熊本市内の官舎におりましたが、前震の際は震度6強でした。発生時は垂直に突き刺すような揺れで体が浮きそうな程でしたし、まさか熊本でこのように大きな地震に見舞われるとは思ってもみませんでした。すぐにNHKテレビを付けて確認し、佐賀県にある目達原飛行場に映伝装置付のヘリがありましたので、その隊長に連絡をして、熊本が震源の地震なので直ぐに飛ばす様に指示し、自衛隊として出来る限り迅速な対応を取りました。この活動の特徴として、救援物資については、当方で全ての集約や配布の指示までは出来ませんので、政府主導によって救援物資の積極的な輸送を行なうプッシュ型支援による輸送を行ない、被災者の方のニーズに応じて配布するプル型と呼ばれる輸送支援にした事。そして日米共同による対処としてオスプレイによる輸送とした点ですが、当初当方に配備されているヘリでの輸送を想定していましたので、これは画期的であろうと思います。そして被災者のニーズに応じたきめ細やかな生活支援という事で、災害当初には人命救助が優先でありますので、例えば瓦礫等に関して言えば、人命救助後にはその場の瓦礫除去の優位性が無くなってしまふ為、またその後の撤去は民間業者が出来るので、むやみに自衛隊が出て民業を圧迫するという事があってはいけないという観点から、緊急性のある人命救助のみを優先させていたという事があります。しかし今回の熊本地震では、その後生活道路の復旧という部分も含めて対応致しました。また車中泊による被災者のエコノミー症候群発症を改善するために、自治体に天幕を貸与しました。当初は天幕など喜ばれるのか半信半疑でしたが、殊の外喜んで頂けました。また災害救援の一環として防衛省が年間契約をしている「はくおう」という民間船舶を休養施設として利用し、延べ2,605名の被災者の宿泊や食事及び入浴のサービスを提供いたしました。この「はくおう」は南西諸島での紛争が起こった際の対処として、陸上自衛隊や航空自衛隊も展開をする必要がある中で、海上自衛隊の艦船だけではとても足りないために、契約をしている民間の大型客船であります。また別の支援として、即応予備自衛官の活用という事で、東日本大震災発生時に初めて派遣され今回も派遣されましたが、この自衛官には看護師、整体師、鍼灸師等の資格保有者もおり、被災者の健康指導等を実施しました。またフォークリフト資格所有者が、物資積載支援を実施致しました。そして我々がこの様な災害支援の際に重要だと位置付けている「状況の特質」という状況分析のような事をするのですが、この地震での西部方面航空隊・高遊原分屯地での状況の特質は、①

阿蘇地区が孤立→ヘリによる救助・空輸がカギ、高遊原分屯地が航空活動の基盤②益城町の被害が拡大→本来任務外であるが、地元への貢献③分屯地自体が被災→如何に分屯地機能を維持するか④隊員や家族が被災者→隊員を職務に専念させる着意⑤全国からヘリ部隊が集結→配属部隊を活躍させる、でありました。そして災害派遣のストーリーとしては、上級司令部の要求に即応し、航空隊各部隊がそれぞれの特性を活かして活躍し、高い評価を得る事。この際、全国からの配属部隊にも活躍の場(任務)を設定し、充実感をもって帰隊させ、航空科職種としての評価を得る事。また、高遊原分屯地が大規模災害時のハブ機能を発揮し、分屯地の重要性を内外に示す事でありました。そして今回の対応としては航空運用として、航空偵察・ヘリ映像伝送、人命救助、人員・物資輸送、屋外管制業務、要人による視察支援、そして基盤機構の発揮という事で、物資輸送のハブ機能、派遣部隊の休養場所提供、続いて地域への貢献として、孤立者の輸送、毛布等の配布、給水・給食支援、食糧・物資輸送、そして被災家族への対応として、宿泊場所の提供を行ないました。今後もこの様な災害が起こった際は、迅速な対応はもとより一回被災者の観点に立って支援として提供出来るかを追求して参ります。続いて国際緊急援助活動についてです。これは外国から外務大臣へ要請が来た際に総理の判断を基に救助隊を派遣するものですが、自衛隊は外国から見ると軍隊ですので、当事国の同意が必要となります。陸上自衛隊は①医療活動②輸送活動③給水活動が行なえるように備えております。海上自衛隊は輸送機・補給艦・護衛艦・哨戒機によって、各種海上輸送や捜索救助活動を行ないます。航空自衛隊はC-130型機6機で活動部隊の航空輸送や救助物資の輸送の活動を行ないます。最近発生したインドネシアでの災害でも、この輸送機によって輸送が行なわれ活躍致しました。私は国際地域調整官時代の平成26年3月から平成27年12月までの間に国際緊急援助活動が4回当たりました。



最初は、マレーシア航空機捜索でオーストラリアを拠点に5週間いました。その後エボラ出血熱の調整対応でガーナに指揮官として行き、同月にはエアアジア航空機の捜索という事でインドネシアへ向かい、またその3か月後にネパール地震への対応という事でネパールに飛びました。マレーシア航空機の捜索では当初C-130輸送機で行きましたが、これは元々が輸送機ですので、当初器具を

付けて体を固定して海上をひたすら見回すという荒業をせざるを得ませんでした。後に哨戒機が投入されました。またエボラ出血熱の対応では現地調整所長として派遣されましたが、ここでは空輸隊としてKC-767という空中給油が可能な輸送機が活躍しました。またエアアジア航空機捜索に関しては、年末でしたので自身の車で帰省をしているさ中に、テレビで情報を得て慌てて本部に連絡を入れましたが、現地に赴く為には当方が軍用機ですので、現地の許可をもらう必要があるからそれ程急がなくて良いという話でした。しかし急遽戻り派遣されました。その時はインドネシア沖にいた護衛艦2隻が派遣されました。当時インドネシアに対して中国と日本が高速鉄道の受注を争っている中だった為、なるべく長く赴任

して成果を上げるような要請が来ておりましたが、1週間が限界であろうとの判断から、墜落後のご遺体の確実な収容と、協力に対する感謝を当事国から頂くための努力を最大限にしました。ネパール地震でも医療活動や診察の指示を出しました。陸上自衛隊は国内での援助・救助活動の他、国際的な援助もし、更に近年ではアフリカやアジアの近隣国に対して能力構築を行ない、PKO等の現場で重機操作等で活躍できる人材の育成にも努めており、また東南アジアへも援助活動のノウハウを伝授し、共に活動が出来る様に育てていく活動もしております。日頃より多大なるご理解とご協力を頂いておりますロータリークラブの皆様には、引き続きのご支援をお願い申し上げます。

立川駐屯地見学会



例会前の昼食の様子



掲示板

11.13[火]~15[木] 実施 インターンシップ受け入れの様子 その1

古屋総合事務所



(株)変環境開発



みんな頑張れ~!!



(株)ヤマヲ



(株)三越伊勢丹 伊勢丹立川店



事務局／東京都立川市曙町2-34-6 小杉ビル8階
 【TEL】042-525-4046 【FAX】042-529-2666
 【HP】<http://www.tachikawa-rc.org/>
 【E-mail】ttrc8082@sepia.ocn.ne.jp

例会場／東京都立川市曙町2-40-15 パレスホテル立川
 TEL：042-527-1111
 例会日／金曜日 12：30点鐘
 会長／清水淳一 幹事／平井洋孝 会報担当者／具島健太郎委員